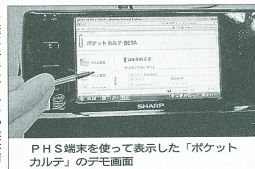


健診情報 ネットに蓄積 いつでも閲覧

情報技術の普及に取り組むNPO法人特定非営利活動法(日本サスティナブル・コミュニティ・センター(SCC)・京都市上京区)やウィルコムなどは十二日、個人が健康診断などの医療情報をインターネットに蓄積し、いつでも閲覧できるサービス「ポケットカルテ」を六月から試験提供すると発表した。今秋には健康に関する助言などの有料サービスも予定する。



PHS端末を使って表示した「ポケットカルテ」のデモ画面

医療分野ではカルテや健診結果などの電子情報化が進んでいる。新サービスは医療情報を一元化し、健康管理や医療の効率化に結びつける狙い。SCCなどのほかフェイスの子会社メディアカルコミュニケーション(東京都)、医療情報システム会社のアピラス(同)が参加する。試験サービスは無料で、専用ホームページに登録すれば健診や診察結果などを入力、蓄積し、閲覧できるようにする。初診時にPHSで医師に見せて参考にしてもらうなどの利用法が考えられる。十月からは有料の本格サービスを始める予定。個人ごとの医療情報を分析し、身体の特徴を早期発見して知らせたい、生活習慣の改善につながるアドバイスを送るなどのサービスを検討している。SCCの北岡有喜副代表理事(国立病院機構京都医療センター医療情報部長)は「将来的には病院の電子カルテをそのままポケットカルテに入力できるようにしたい。個人の同意を得た上で蓄積した医療情報を統計的に分析し、診断の向上に役立てる」とも考えられる」と話している。

将来はカルテ機能も 京のNPOなど新サービス